

死んでいるわけではありません。ウシのレム睡眠姿勢で、私たちと同様にたぶん夢を見ています。6月29日、八ヶ岳中央農業実践大学校



上顎に比べて下顎の幅が狭いので、顎を横にずらすことで1リットルまで草をすりつぶす反芻(はんすう)動作。7月24日、八ヶ岳中央農業実践大学校



7月18日生まれのシャーシーの雌の子牛。親とは離し、子牛同士で相互感染しないように個室小屋で職員が粉ミルクをあげて育てている。8月19日、八ヶ岳中央農業実践大学校



八ヶ岳山麓 ウシ編 動物ふれあい日記

3 ウシは大食漢



口の幅が広いので、様々な草が一度に入ってくる。6月27日、八ヶ岳中央農業実践大学校

ウシの口は横に広く、生えている草を舌でからめてまとめて食いちぎり、同時に噛んで飲み込みます。ヤギ編でも書いたように、大きな動物は、選んで食べるよりも一口で多くの飼料を食べようとします。しかも100〜200リットルの胃を持っているので、1〜2時間も食べ続けます。一日に何と体重の15%重の食事をとります(体重500キログラムとして75キログラムの青草)。その後近くの快適な場所に寝て、眼を半開きにし、まごろみながら口を1秒当たり1回の速さで下顎を横にずらしながらかみ続けます。真似をするとはわかりませんが、上の前歯が邪魔します。何とウシには上顎の前歯は無く、代わりに歯茎が洗濯板のように固くなっています。この動作を反芻(はんすう)と言い、一度飲み込んだ草を吐き戻して、1リットルサイズまですり潰す作業をしています。食事時間は一日8時間、反芻時間も8時間、睡眠4時間、休憩や仲間との交流が4時間という生活をしています。詳しく観察すると、色々なことに気がつくよ。

(八ヶ岳中央農業実践大学校畜産部長、佐藤衆介) 随時掲載

食事8時間、反芻も8時間



ノンレム睡眠姿勢で、一日3時間以上はこの姿勢で寝る。6月29日、八ヶ岳中央農業実践大学校



7月23日生まれのホルスタインの雌の子牛。将来、牛乳を出す雌は実践大で育て、雄の子牛はしばらくすると肉用に育てる業者に販売する。8月19日、八ヶ岳中央農業実践大学校



佐藤衆介(さとう・しゅうすけ) 1978年に東北大学大学院農学研究科博士課程修了。80年から宮崎大学助手、88年から同大助教授を務める。94年に東北大学助教授に着任。2002年からは農業・生物系特定産業技術研究機構畜産草地研究所放牧管理部長。05年から東北大学大学院教授を務める。同大名誉教授。15年からは帝京科学大学教授。19年に八ヶ岳中央農業実践大学校(原村)の畜産部長となり、現在に至る。主な著書は「アニマルウェルフェア」(東京大学出版会、2005)など。